

マネジメントシステムの情報セキュリティ版がもたらすもの —信頼？姿勢？安心？—

徳島大学情報センター・上田哲史

ueta@tokushima-u.ac.jp

平成26年8月25日

近年、ISMSを取得する大学が増加している。その背景にはパブリシティの価値もあるが、本質的には大学組織がこれまであまり意識していなかった情報ガバナンスの構築に関して、ISMSが本質的に適切な仕組みであること、また、今後クラウド利用が促進するにつれクローズアップされるであろう事件事故災害に対するBCP、人的体制維持、セキュリティ教育普及など、ISMSのPDCAに包含されている魅力などがある。

本学では2012年3月に、国立大学としては4番目にISMSを取得した。現在は3年目(認証期間最終年度)となっている。ISMSの枠組みは情報センターの運営そのものに直接反映され、また、取り組みの全てが、情報ガバナンス体制維持、セキュリティ対策予算策定、外部評価、改組、クラウドによる情報システム最適化などに結びついてきている。発表ではそれらの概要を述べるとともに、ISMSが果たす人的セキュリティ対策の効果について、本学の状況を示す。なお、配布資料には一部発表内容が削除されている。